

5 - 1 1 東海地方におけるラドン観測 (XVI) Radon Observation in the Tokai District (XVI)

東京大学大学院理学系研究科
Graduate School of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき,東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1997年11月~1998年10月)を報告する。

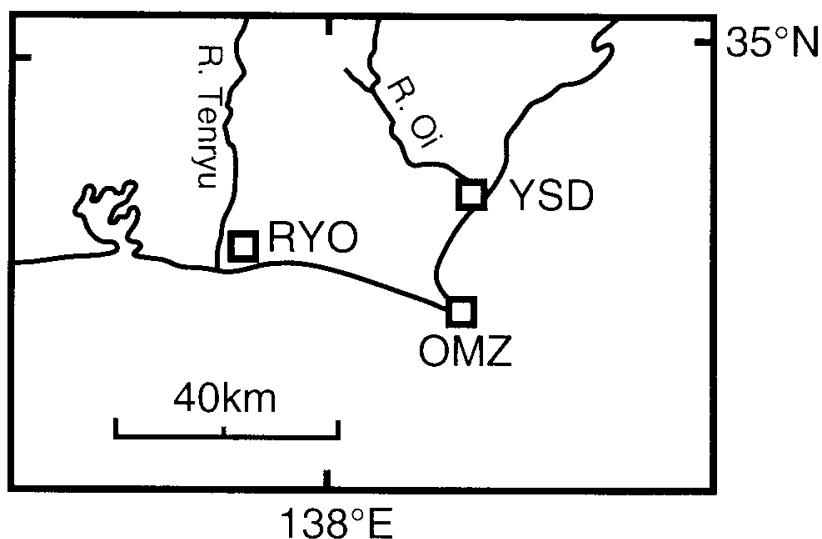
観測点は,第1図に示す竜洋(RYO),吉田(YSD),御前崎(OMZ)の3地点である。第2図は各観測点における,1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均の変動で,縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。また各図の右上には,1995年以降のラドン濃度の観測値を示してある。

RYO, YSDでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが,これは人工揚水の影響であると解釈される。またYSD観測点ではラドン濃度が大きく変動しているが,これは観測点の近くで行なわれている建設工事の影響を受けていると考えられる。

OMZでは大きな年周変化がみられる。これは主に,降雨に対するゆっくりとしたレスポンスであると考えられる。

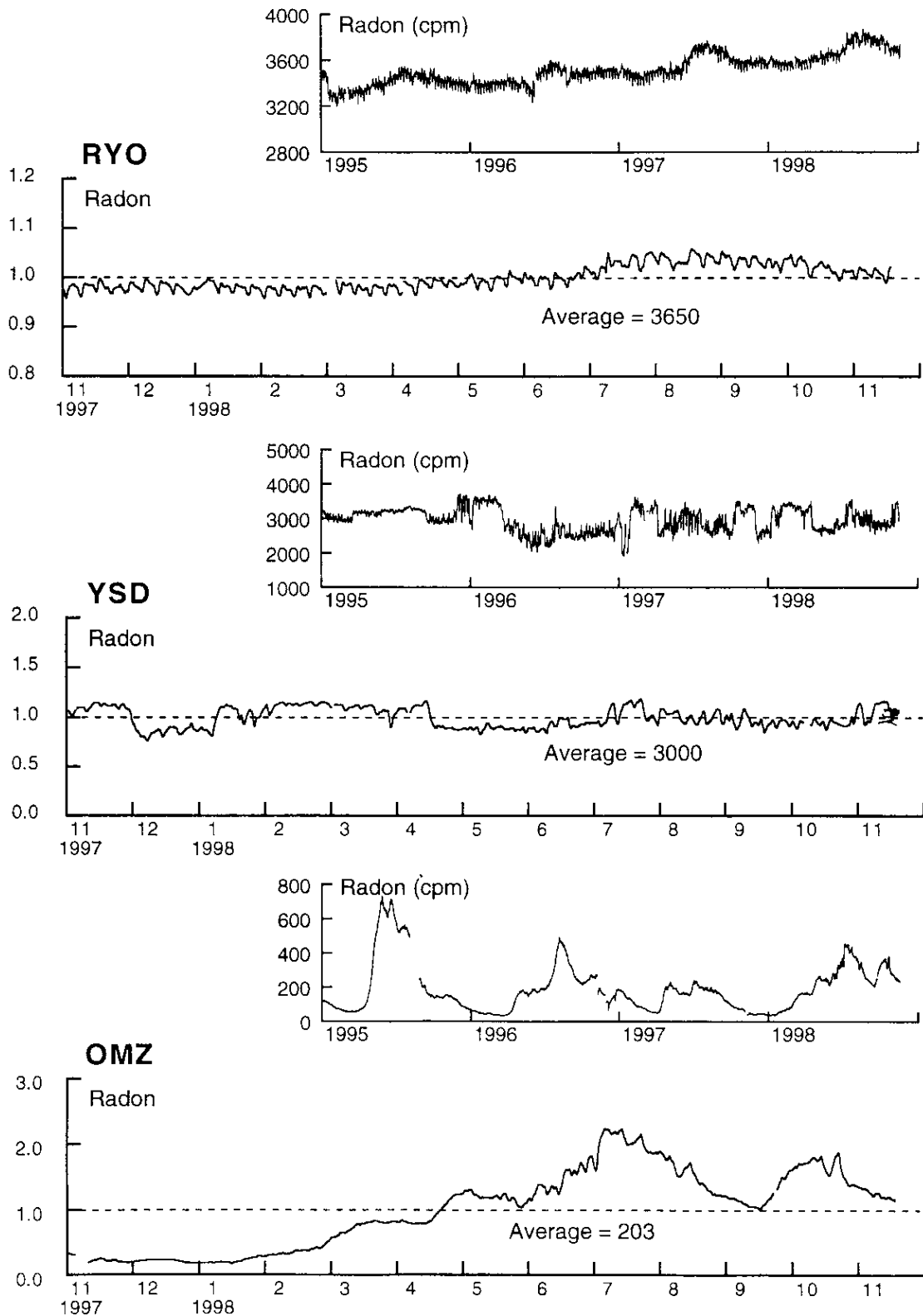
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部:東海地方におけるラドン観測(XV),連絡会報,59(1998),364-365.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district.



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎)における地下水中のラドン濃度の変化
 Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki). The data are 24-hour moving average values.